

景観で地域をアピール

樹海の里 写真愛好会



▲樹海の里フットパスウォーキングで参加者を撮影

美しい田園風景が広がる富良野。その豊かな大自然の風景を中心に、写真を通じて東山地域をPRしている樹海の里写真愛好会（横井弘道会長）。平成22年から2年間にわたり、東大演習林と東山樹海の風景を撮影していた横井会長。ことぶき大学東山校で行われた活動発表の場で紹介した際に、その作品を見た東山支所長が、東山

地域観光振興計画の推進活動の一つとして写真愛好会の立ち上げを提案。地域で写真に親しむ人たちに声をかけ、平成24年4月に樹海の里写真愛好会を設立し、現在10人の会員で活動しています。写真を趣味とする人や、中には個人で展示会を行う人がいるなど、撮影の技術も違う会員が月1回程度集まり、市内で行われる文化祭などに作品を出展しています。



▲地域に咲いているひまわり畑。文化祭などで展示している



▲直売所の展示コーナー。2Lサイズの写真は無料で配布

また、東山パークゴルフ場にある直売所に風景写真を展示し、一部を無料で配布するなど、訪れた観光客にも、地域の魅力を発信しています。

「東山に住む人も千人を割り込んでいます。いろいろな場面で写真を見た人が、行ってみたい、住んでみたいと思ってくれるとうれしいです」と話す横井会長。今年も愛好会の会員に、雑誌などへの応募を呼びかけて、多くの人に見てもらおう機会を作りたいと考えているそうです。「大きなことはできませんが、自分たちができることから、地域に貢献したいですね」とさらなる活動に意欲を燃やしています。

(写真提供 横井弘道さん)